

第5学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案

令和7年2月21日 5校時

13:30～14:15

対象 第5学年2組(33名)

指導者 猪谷 徹

1 単元名

「わが街池上 ～呑川みらいプロジェクト～」【B地域の創生】
(未来づくり35時間扱い)

2 単元の目標

「呑川の会」の人々の願いを知り、解決のためのアイデアをまとめて提案したり、実践したりする活動を通して、地域の一員としてよりよいものをつくり出すために試行錯誤しながら、協働的に問題解決に取り組むことができるようにする。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
コンセプト	1 「呑川の会」の方々の Well-being に向かって、どのような取組を行うかという構想が「地域の創生」のコンセプトであることを理解し、コンセプト設定に必要な知識・技能を身に付けている。	1 「コンセプト」の意味理解に基づいて必要な情報や情報収集の方法を考え、情報を整理・分析して必要なキーワードを導き出し、試行錯誤して「コンセプト」を設定している。	1 「呑川の会」の方々との対話を大切にし、すすんで情報を収集したり、アイデアを出し合ったりして協働的にコンセプト設定に取り組もうとしている。
デザイン	2 コンセプトに基づいて、「呑川の会」の方々に受け入れられる取組を企画するために必要な知識・技能を身に付けている。	2 コンセプトに合った取組の内容や対象、方法等を考え、持続可能性、実現可能性、費用対効果、時間対効果などの視点を踏まえて、企画している。	2 すすんで情報を収集し、アイデアを出し合い、よりよい企画にするために、持ち味を生かして協働し、粘り強く取り組もうとしている。
クリエイション	3 企画を具現化し、発信するために必要な知識・技能を身に付けている。	3 「呑川の会」の方々からの評価等を整理・分析し、試行錯誤して、企画の資料作成や提案・実践の準備を改善して行い、相手意識に立って発信している。	3 すすんでアイデアを出し合い、持ち味を生かして協働しながら、粘り強く取り組もうとしている。 4 「呑川の会」の方々からの評価等を受け止めて、取組を振り返り、価値や改善点を見いだそうとしている。
ICTの活用	4 ICTを活用した情報収集・スライド作成・調査・統計資料作成に関する知識・技能を身に付けている。	4 効率性や分かりやすさ、持続可能性等の視点をもってICTを効果的に活用している。	5 ICTを他者との協働、振り返り、企画や取組の改善や推進のために活用しようとしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

本校の学区域内に流れる呑川、児童の日々の生活の中で当たり前に見える光景である。呑川の歴史は、深く、以前は生活用水となり人々に歴史を支えていた。「呑川の会」は、自然環境豊かな流域づくりをめざして活動している区民を中心とした団体である。今現在、池上小学校では、「呑川の会」の方が企画する「こいのぼり大会」に毎年2年生がこいのぼりを作って5月のゴールデンウィークに飾ってもらうなどして関わっている。本単元では、「呑川の会」の方と連携し、呑川の現状や問題等を児童自らが「呑川の会」の一員としてできることを考えて実践する問題解決学習を行う。「呑川の会」の願いを把握し、相手意識をもって提案を考え、「呑川の会」の方とのやり取りを繰

り返し行いながら創造・発信していくことを通して、児童一人一人の問題解決能力を高めていきたい。そして、「呑川の会」の方と関わり、一緒に願いや問題を解決していく経験を通して、地域への理解や愛着を深めていきたい。

(2) 授業パートナーとの連携

今回は、「呑川の会」の方から「①呑川の周りの環境をもっと良くしたい」「②呑川のことをもっと知ってもらいたい」「③「呑川の会」のことを多くの人に知ってもらいたい」という願いをいただくことができた。児童たちが「呑川の会」の人のために解決策を考え、それを伝えることで、下記のような資質・能力の育成が期待できると考えた。

企業名	企業に依頼した活動内容	期待したい資質・能力
「呑川の会」 代表者 白石さん	現状や願いについての講話 取材許可 呑川ウォークへの同行 児童の提案へのフィードバック	・「呑川の会」の方の話を聞くことで、課題意識をもつ。 ・地域との交流を通して、地域への愛着を深める。 ・児童の提案へのフィードバックをいただき、修正を繰り返すことで、問題解決学習の質を高め、問題解決能力を高める。

(3) 学習過程

「実社会で活躍する人との出会い」では、呑川の会の方に来ていただき、呑川や呑川の会の現状、児童への願いを中心に講話を行っていただいた。児童には、新教科「おおたの未来づくり」について話し、「呑川の会」の方がどんなことをやっているのか。」「どんなことに困っているのか。」について課題意識や目的意識をもって講話を聞くように重点的に指導した。

「コンセプト」では、「呑川の会」の願いを実現するために、相手意識をもってコンセプトを設定した。3つの課題を2つに分け6つのグループに分けてそれぞれの相手意識をもって各自提案の方向性を考えた。

「デザイン」では、企画の内容・方法を実現可能性や持続可能性、費用的効果、時間的効果の視点から多面的・多角的に考えるように指導した。企画を提案し、お互い評価・分析することを通して、情報を整理・分析し、効果的に人に伝えるための技術について指導した。

「クリエイション」では、絵本作りやポスター掲示などこれまでに取り組んできた活動をまとめ、「呑川の会」の人にプレゼンテーションを行った。取組を振り返り、価値付けをしてもらうことで自分たちが地域のために貢献できたという達成感をもたせたい。

	活動内容	児童の学習内容(めあて)
実社会で活躍する人との出会い	「呑川の会」の方に来ていただき、呑川や「呑川の会」の現状、児童への願いを中心に講話を行っていただく。	・講話の中で身近にある呑川の良さや課題を知り、自分たちに依頼されている内容を知る。
コンセプトの設定	「呑川の会」の願いを叶えるためのコンセプトを決める。	・「呑川の会」の依頼を理解し、必要な情報や情報収集の方法を考え、情報を整理・分析する技能を身に付ける。 ・相手意識をもって実現可能、持続可能な視点からコンセプトを設定する。
デザイン クリエイション	○各グループコンセプトを達成するための企画を練り、「呑川の会」に提案する。 ○企画を修正し、実際の製作や企画の実践を行う。 ○「呑川の会」に企画の最終発表を行う。	・回数、時期、場所、準備期間など検討し、計画的に準備していく。 ・取組を振り返り、価値や改善点を見だし、「呑川の会」の願いを叶えるためにより試行錯誤し考える。
レビューまたはフレクション	○最終フィードバックをもらい、授業のまとめを行う。	・今回の全学習過程を通して、自分たちがしてきたことの価値を見いだす。

(4)本単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数

教科等名	本単元で扱う内容	授業時数
国語	・インタビューの仕方を学び、地域の方へ効果的なインタビューを行うこと。 ・統計資料を読み取る力や、統計資料で効果的に伝える力を身に付け、広報活動に役立てること。	9
社会	・地図を使って場所の様子や地域の全体図を説明し、身近なところに地域をよりよくしようと働いている人々がいることを紹介すること。	3
図工	・造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。	3
理科	・台風による災害について調べ、災害に備えることの重要性を考え、自らの行動や地域の中でどのように行動するかを考えること。	3
外国語	・簡単な語句や基本的な表現を用いて学校生活や地域に関することなど身近で簡単な事柄について自分の考えや気持ちなどを話すこと。 ・相手に伝えるなどの目的をもって身近で簡単な事柄について、大文字や小文字に気を付けて書き写すこと。	2
総合	・地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現すること。	15

5 児童の実態

事前のアンケートには、「呑川が好きですか。」という質問に8割以上の児童が「とてもすき。」「ややすき。」と

回答した。しかし、「呑川について詳しく知っていましたか。」という質問に対しては、「くわしく知っていた。」「やや知っていた。」と回答した児童は2割以下であった。このことから、生活の身近にある呑川に好意的な児童は多いが、知らないことも多くあり、自ら意欲的に調べたり触れ合ったりする経験は少ないと考えられた。また、アンケートに「緑などが多くて良いが、汚れている所がある。」「時々、臭いがきつい。」「ゴミが溜まっていることがある。」と答えるなど、呑川に対するネガティブなイメージをもっている児童もいる。自分が感じている問題と、それを解決するために尽力している「呑川の会」の方々の真剣な取組や生き様に触れることによって、児童の問題意識は一層深まるとともに、自分にとって意味や価値のある課題を見いだすことが考えられる。「呑川の会」の方々から依頼された願いと自らの課題意識を結び付けて、呑川の創生について地域社会の一員として自分事として捉え、主体的に取り組むことができるようにする。

ICTの活用においては、1学期の総合的な学習の時間で「SDGs」についてスライドにまとめてプレゼンテーションする授業を行った。情報収集の場面でもインターネットを活用している。中学年から継続的にICTの活用を続けてきた成果として情報収集やスライド作成に関する基本的な知識・技能は多くの児童が身に付けている。

6 指導の手だて

(1) 授業パートナーとの打ち合わせ

「呑川の会」とは夏休みに事前の打ち合わせを行い、担任が「呑川の会」の概要について教えていただき、どのような手順で学習を進めていくかを共有した。その打ち合わせ、「呑川の会」の方の願いを児童に伝えてもらい、その解決策を2月に発表するというゴールまでの流れを共有した。

・9月中旬に児童に呑川のことを紹介する。また、「呑川の会」の方の願いを児童に伝える。

・9月下旬に「呑川の会」の方にガイドをつけてもらい、第1回目呑川ウォークを実施。

・11月に班ごとに課題解決に向けたコンセプトを発表し、アドバイスをいただき今後の方向性を決める。

・12月に第2回目の呑川ウォークを行い、班ごとに課題解決に向けた活動及び資料集め等をする。

・1月の学校公開で「呑川の会」や保護者を招いてプレゼンテーションのリハーサルを行う。保護者の方には、アドバイスをいただく。

・2月に「呑川の会」の方に最終発表を行う。

(2) ICTの活用

呑川に関する内容をタブレットで検索サイトを使用して調べ学習を行う。各グループで考えた内容について、スライドを作成してプレゼンテーションを行う。

(3) 呑川ウォーク

呑川の側道を散策する呑川ウォークを2回実施した。児童はこの体験を通して、呑川の自然環境や、上流・下流での水の流れの違い等を確認することができた。また、実際に「呑川の会」の願いや掲示板の存在についても知ることができ、その後の活動で明確な目的意識をもつことにつながった。

(4) 3年生への制作物の発表

「呑川の会」に最終発表をする前に、下級生に向けて制作したものを発表した。自分たちが制作したものが下級生でも理解することができるものになっているのかを確かめる機会となった。また、下級生の保護者にも呑川について広めるように伝えたことで、地域へ発信する一歩目ともなった。

7 指導計画 おおたの未来づくり35時間(総合的な学習の時間15時間+各教科20時間)

	時間	総合	各教科との関わり	○学習活動 ★手だて 〔授業パートナーとの連携〕	◆評価基準
コンセプト	4	総合(4)		○「呑川の会」の活動について知る。 ○「呑川の会」の人から願いを聞く。 ○各グループ課題を1つ選び、その解決に向けたコンセプト(方針)を決める。 A 「呑川の周りの環境をもっと良くしたい。」 (魅力ある遊歩道整備など) B 「呑川のことをもっと知ってもらいたい。」 (歴史、水害対策、水質、動植物など) C 「呑川の会のことを多くの人に知ってもらいたい。」(若い人にも関心をもってもらいたい。)	◆【主】① ◆【知】① ◆【思】① (ワークシート)
デザイン	19	総合(7)	社会(3) 国語(6) 図工(3)	○各グループでコンセプトを達成するための企画を練る。 ○企画の内容や方法を検討するために「呑川の会」の人と一緒に呑川ウォーク(歩きでの調査)を行う。 ★自分たちの課題意識をもって取り組むように声掛けする。 ○呑川を歩いて調査したことや聞いたことなどを整理して課題解決に向けての企画を提案するための準備をする。 ★相手意識をもって「呑川の会」の人たちの願い(コンセプト)に何度も立ち戻って考えることができるよう声を掛ける。 ★企画を提案するためのプレゼンテーションの作り方について動画を見せる。(NHK for school) ○企画の内容について友達と共有し、アドバイスをもとに試行錯誤して検討していく。 ○「呑川の会」の人に企画を提案し、フィードバックを基に新たな課題や改善点を発見する。 ★「呑川の会」の人からのフィードバックはメモを取ったり、動画を撮ったりして記録しておく。	◆【知】② (ワークシート) ◆【思】② (ワークシート) ◆【主】② (発表) ◆【知】② (スライド) ◆【主】② (発表) ◆【思】② (発言)
クリエイション	12	総合(4)	理科(3) 外国語(2) 国語(3)	○「呑川の会」からのフィードバックを基に企画を修正し、実際のものづくりの制作や企画の実践を行う。 全6チーム A1:NOMIGAWA CLEANプロジェクト (ゴミ拾い・柵にクイズ掲示・柵の掃除) A2: ゴミ拾い大作戦+ポスター掲示 B1: 子どものための呑川絵本プロジェクト B2: 絵本で呑川について知ってもらうおうプロジェクト C1: 会報「のみがわ」5年生号① C2: 会報「のみがわ」5年生号② ★「相手意識」をもって取り組むように声掛けする。 ○制作や実践を進めていく中で、再度調査したいことや、試行したいことを行うために2回目の呑川ウォークを行う。 ○下級生に制作したものを発信し、制作物が実社会で活用できるものになっているか確かめる。 ○下級生の感想や反応から更に試行錯誤し、よりよいものにしていこう。	◆【主】③ (ワークシート) ◆【主】③ (発表) ◆【思】③ (発表・スライド) ◆【知】③ (スライド) ◆【知】③ (行動観察) ◆【知】③【思】③ (制作物・発表) ◆【思】③【主】④ (制作物・行動観

				○完成した制作物と実践した活動について「呑川の会」の方の最終発表するためのプレゼンテーションを作る。 ★グループ同士で企画のプレゼンテーションを評価し合い、試行錯誤してより良いプレゼンテーションを作りあげることができるようにする。 ○「呑川の会」に企画の最終発表を行う。(本時) ○これまでの学習過程を振り返り、今後の呑川の創生への自らの関わり方を考える。 ○「呑川の会」の人から取組について価値付けしてもらい、まとめを行う。	察) ◆【知】③ (スライド) ◆【思】③ (スライド・発表) ◆【主】④ (ワークシート)
--	--	--	--	--	---

8 本時の指導(33/35時間)

(1)目標

呑川会の方々からのフィードバックを活かして、試行錯誤して改善してきたプロジェクトの内容について、相手意識をもって最終提案する。

(2)展開

	○ 主な学習活動	◆ 評価規準【観点】(方法)★手立て
導入 5分	○ 「呑川の会」の願い(コンセプト)と学習のゴールを振り返る。	★「呑川の会」の願いを叶えることができているか評価できるように、コンセプトを板書する。 「呑川の会」の願い A「呑川の周りの環境をもっと良くしたい。」 (魅力ある遊歩道整備など) B「呑川のことをもっと知ってもらいたい。」 (歴史、水害対策、水質、動植物など) C「『呑川の会』のことを多くの人に知ってもらいたい。」 (若い人にも関心をもってもらいたい。)
	○ 本時のめあてを確認する。	
	改善した呑川のプロジェクトについて、相手意識をもって最終提案しよう。	
	○ 本時の学習活動の流れを確認する。	
展開 30分	○ 各グループの取組を「呑川の会」の方々に、事前に用意した資料をもとに1チームずつ全体で発表する。 全6チーム A1:NOMIGAWA CLEANプロジェクト (ゴミ拾い・柵にクイズ掲示・柵の掃除) A2: ゴミ拾い大作戦+ポスター掲示 B1: 子どものための呑川絵本プロジェクト B2: 絵本で呑川について知ってもらおうプロジェクト C1: 会報「のみがわ」5年生号① C2: 会報「のみがわ」5年生号②	★「相手意識」をおさえる。 今回の相手＝「呑川の会」 ・ 相手がどんな情報を知りたいのかを意識する。(内容) →改善したところ、制作物や活動の具体的な内容を伝える。 ・ どう工夫して伝えれば、相手が理解しやすいか想像する。(伝え方) 1 相手を見て 2 笑顔で 3 ハキハキと
	○ 他のグループの発表を聞き、中間発表時と比べて、内容や提案の仕方の改善しているところについて、Google formsに記入する。	★「呑川の会」の方にも願いが達成しているかアンケート用紙に記入していただく。 →次時の振り返りの活動に活かす。 ★ Google formsを使って、振り返りを即時共有し、まとめの時間にすぐに活かすことができるようにする。
		◆ これまでのフィードバックを活かし、試行錯誤してプロジェクトの内容を改善し、工夫して提案している。【思】③(スライド・発表の様子)
まとめ 10分	○ 「呑川の会」の方に各グループに入ってもらい、中間発表時と比較した講評をいただく。 ○ 各チームで学習を振り返ったことを全体に発表する。 ○ 今後の活動内容を確認する。	★「呑川の会」の方々には、創り出したものや取組と、単元を通して取り組んできた学習過程に対する価値付けをしていただく。 ★「呑川の会」の方からの講評と、友達からの言葉を材料に、学習過程を振り返る。